

新春
インタビュー

清水 教博氏

(丸紅建材リース社長)

中期計画最終年度

——上期業績について総括をお願いします。

売上高において前年同期を上回ったが、これは主に貸貸収入の増加によるものだ。単価や稼働率もやや改善されている。現在取り組んでいる3カ年計画では貸貸収入改善に力を入れており、その成果が業績に表れたことになる。しかし、需要が中弛みしたこともあり当期利益においては、通期見通しの50%は確保したものの、前年同期比では減益となった。

——出ても、そう大きくないと思われる。

——中期経営計画の最終年度として進捗はいかがですか。

今年度の業績数値見通しが、中計の目標値をクリアした。具体的な取り組みとしては先ほどお話ししたように貸貸収入改善などが第1に挙げられるが、数字そのものは改善しており成果は出たものの、適正な賃料確保をまだ達成できていないわけではない。賃料は、上下変動があり賃料水準改善という点では、足元少し停滞感が出ていると思う。人材育成に関

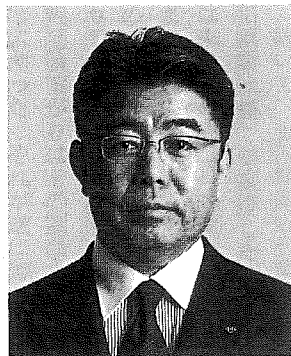
——下期の事業環境についてはどう見えていますか。

上期では、需要中心地域である首都圏と東北の出件

ペースが少し落ちていた。この傾向は下期も続くだろう。だが入りと出が両方ずれ込んでくるため、貸貸の稼働率は余り落ちずには済んでいない。年度末特有の需要要素も目立たないと思うので、上期と下期、需要環境に余り変化はなからう。

——杭打ち問題が社会問題となつていますが、建設需要への影響は下期に出てくるものでしょうか。

現場の話を聞いている限り影響が



成長への礎しっかりと

人材育成さらにレベルアップ

——上期では、需要中心地域である首都圏と東北の出件ペースが少し落ちていた。この傾向は下期も続くだろう。だが入りと出が両方ずれ込んでくるため、貸貸の稼働率は余り落ちずには済んでいない。年度末特有の需要要素も目立たないと思うので、上期と下期、需要環境に余り変化はなからう。

要規模があるところにおいて拠点を強化していきたい。先ほどのタイでも色々取り組みを行っている。

——設備投資に関して、今年度はいかがですか。

工場において、更新時期にきているものだけでなく、作業がより効率的になる機械などに対して投資はしていく。また安全を維持・強化するための投資も継続して行う。

——これからの需要環境に関してですが、東京五輪関連で増えていくであろうとは思いますが、ピークアウトに関してはどう見えていますか。

東京五輪があるからというだけでなく、インフラ整備などの需要はある。しかも、それらを五輪に間に合わせようという動きは当然出てくるが、実際の工事は遅れ(5面に続く)

ていく。新たな中計の期間となる3カ年は需要環境としてもそう大きな変化はないと見ている。その間に成長戦略を進化させていく。

——事業会社の現状と今後の動向についてもう少し詳しくお聞かせください。

業績に関して、前年同期を下回っているのはタイマルケンだけだ。しかしタイの経済成長は速度が落ちたものの、3%前後の成長は見込まれ、何とか踏んばれている。興信工業においては、主に上下水道向け工事だが、メンテの部分に参入してベイスカーゴになるまで広げていきたいと考えている。

——事業の似通ったところとのM&A可能性はありますか。

現在検討している案件はないが、可能性があれば探っていく。

——今のところビジネスチャンスを狙った新しい案件はありますか。

現在具体的にな

ているケースもあり、五輪が終われば即ピークアウトということではなく、もう少し先迄需要は続くと思われる。

——東北復興需要についてお聞

きします。被災地の中で一番需要につながる福島は、原発問題があり遅くなりましたが、これから業界内でもここに注目が集まっていますね。

福島の場合は必ず出てくる。ただ本格的になるのはもう少し先からだと思うが、相当期間需要があると思われる、今後は地域性のある仕事が多くなると思われる。

(康)